

令和2年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

令和2年度事業報告

令和2年度施設目標

「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受け新しい生活様式のもと、不安な気持ちを抱え生活する入居者・利用者様に対して、職員一人一人が思いやりの心でケアをさせていただくことで、安心した暮らしに繋げることが出来た。また、地域社会に貢献する意識を持つことにより生活困窮の問題等、地域との繋がりを強化することが出来た。

【日中オムツ排泄ゼロ】

- ・本人の気持ちを大切に継続していく
- ・オムツの削減

【口腔機能を維持し美味しく食べる】

- ・全フロアで食事前に嚥下体操の実施
- ・歯科往診での定期的な指導・アドバイスを周知
- ・意識・知識が向上し、衛生管理や食事を美味しく食べる

【身体拘束ゼロの実践】

- ・身体拘束ゼロの施設方針を掲示
- ・委員会の定期的な開催・検討
- ・拘束に対する意識が向上

特養稼働率・タイムラグ

- ・従来型 96.5% 50.2名 ユニット型 95.2% 45.7名
- ・タイムラグ 本館 12日 新館 13日
- ・退所者数 本館 16名 新館 16名 合計 32名
- ・退所者のうち18名がターミナルケア、14名は急変等により医療機関

在宅部門

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月1回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイの利用が1日平均21.5名 61.5%
- ・ショート利用が1日平均7.0名、稼働率87.6%

委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見をもちより具体的な検討・実施

施設のイベント

新型コロナウイルスの影響にて外出、ボランティア、大人数での集団イベントの中止
感染対策を行い少人数、フロアー単位等でイベントを実施。

- ・9/6（日）納涼祭の実施（入居者・職員のみ）
- ・9/15 敬老会の実施（各フロアーにて）
- ・映画鑑賞、喫茶、テイクアウト、球技大会等苑内でできることを行う

実習生の受け入れ

- ・関東福祉専門学校から4名の実習生（海外留学生）
- ・埼玉福祉専門学校から社会福祉科より1名の実習生、介護科より1名の実習生

教育研修

- ・苑内での伝達研修会を21回行い、平均15名が受講
- ・第13回事例報告会では、9部署が発表し30名参加

苑内設備更新

- ・防災盤の更新
- ・見守りセンサー
- ・本館ボイラー
- ・空気清浄機、加湿器等の感染対策備品

法人運営

- ・感染症対策の徹底とマニュアル作り
- ・新型コロナウイルス埼玉県互助ネットワークへの参加
- ・特定処遇改善加算取得による職員の処遇改善
- ・彩の国あんしんセーフティネット事業での生活困窮者への対応
- ・障害者雇用の継続

令和2年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	評価
広報委員会	荒井	新型コロナウイルスの影響で、外出イベントが中止となり、広報誌発行に苦労することがあったが、その中で皆で知恵を出し、良い代替案を出せていた。また広報誌発行も担当制にすることにより、慣れない中で、各個人意識をし取り組むことができていた。ホームページの完成まで、時間がかかってしまい目標の部分の意識ができず、反省点となったが、今後のより良い活用に期待できればと考えている。
イベント委員会	進藤	コロナウイルスにより計画していたことはほとんど実行することが出来ず、変更を余儀なくされた。委員会では新たな行事計画が提案され、今までしていなかったこと、コロナ禍だからの案も上がり、皆の協力を得て、ソーシャルディスタンスを意識しながら柔軟に行事を行うことができた。
給食委員会	荻野	今年度はコロナウイルスにより苑内、フロア行事内容が縮小されたが、可能な内容でフロアや厨房の行事食を実施することができた。給食委員会を実施し、食事の問題、改善点を早期に対応できるよう厨房職員と協力し、喜ばれる食事提供を目指したい。
衛生委員会	岡村直	今年度は新型コロナの影響により健康診断の実施時期が例年より遅れ、密集状態を避ける為、一度に受診する人数を減らした。ヘリオス会病院の協力のもと感染対策を徹底したうえで、入居者を含め、予定していた(法律上義務付けられている)回数を年度内に実施することが出来た。コロナ禍において通常面会が制限を余儀なくされる中、オンライン面会やガラス越し面会の体制を整え、運用を開始した。臨時衛生委員会を開催し、デイやショートの一時停止・規模縮小についてや委員会・会議の開催方法についてまた換気や消毒をはじめとする感染症対策全般についての話し合いを行った。新型コロナによる外出自粛での運動不足解消や免疫力増進の為、広いスペースを活用し、職員を集い定期的にエクササイズを行い、職員の心のリフレッシュを図った。その他みまもりベッドセンサーの導入や助成金を活用し、感染対策用品や備品等の購入も行った。
医療的ケア対策委員会	中田	限りある委員会時間の中で、医療的ケアは発生の報告とトラブルの有無の確認だけになる事が多かった。次年度は計画した内容についての討議がなされるよう検討する。
接遇委員会	野本和	コロナ禍で昨年までやっていたアンケートなど実施できなかった。家族の声が聞こえてこなかったが、暑中見舞い、年賀状で近況報告できた。来年度も続く面会制限などをふまえて、何かご家族様に笑顔をお届けしていきたい。今後も目標を意識していってほしい。
防災委員会	藤田	防災訓練は、昼間及び夜間を想定として年2回訓練することができた。今年度はコロナ禍で7月の防災訓練は消防士の方が参加せずに行っていたが、緊張感ある訓練が行われた。11月の夜間想定訓練では、消防士の方も参加され、消火、通報、避難等の動きが良いとの言葉を頂いた。集団訓練として、水消火器・消火栓の訓練行っているが、今後他の訓練体験も取り入れていきたい。
排泄委員会	古市	毎月委員会を行うことができなかったが、日中オムツ排泄ゼロに向けて、トイレ誘導1日1回排便の時だけを含むと70名位の方が、オムツ排泄のみの方は30名と各部署意識した対応ができています。
リーダー会議	古市	コロナ禍でのフロアの対応のできていることや、問題点について共有し、利用者・家族に安心して頂ける事を課題として話し合うことが出来た。感染予防のための職員の休みについての対応もフロアごとで協力して対応することが出来、今後に向けての業務の効率やリーダー間の方向性の統一を図っていく。
在宅会議	藤田	在宅会議の目標の地域ニーズの把握と関わりを密にすることは、地域のニーズまでの把握はできなかった。各部署間の情報共有は出来た。下半期は、事例検討を議題内容に取り入れ、各部署での対応の仕方や意見交換ができたので、次年度も事例を取入れ、事例を通しての考えの統一と知識の向上を目指し広い視野で地域の方と関わられるようにしていきたい。
入所判定会議	島田	今年度は5月に市から措置入所の依頼が1件あり、現在も継続中である。本館、新館ともに待機者数としては大きな変動はないものの1年を通して常に入退所を繰り返している状況であった。コロナ禍の中申込者の状況を把握するのが例年と比べ大変であった。特例入所については本館1件、新館3件とあったが適正な審議が出来たと思う。来年度は、幅広く意見を聞いたうえでの審議を行いたいと思う。
苦情処理委員会	島田	デイサービスでの送迎時間に関する苦情について、交通事情により前後してしまう事があるが、目標とする時間より差異がある場合は、こまめに連絡をとり、不安感を取り除けるように関わる。また余裕をもった時間設定をする。ショートステイの苦情に対して、言葉遣いに関して、再度、丁寧な言葉遣い、対応を皆で周知していく。
身体拘束廃止委員会	川島	一年を通じ、利用者に対しての観察や工夫をし、必要に応じての拘束または早期の解除できるように、協力して頂くことが出来た。少しのことで拘束になるかもという疑問を持ちながら相談・報告し、解決の方向へ向かえればと思う。
虐待防止委員会	島田	一年間、コロナ禍の中で、御家族の面会の制限や、外部からの目が行き届かなくなり、現場ではこれが普通と思っていた対応が一般的には非常識と認識ができ、早い段階で改善することができた。後期になってから虐待に繋がりがねない事例が挙がり、施設全体で相談しながら改善に繋げていくことができた。各フロアでのスピーチロック、虐待に繋がる事例を報告、話し合い改めて現場に落とし込む事で意識付けができたと思う。
教育委員会	古市	キャリアパスフレームに応じた研修は、コロナ禍により開催中止となり、参加させることができなかったが、オンライン研修はいつもより多くの職員が参加できた。苑内研修は21回開催により、必須項目の研修は実行でき、苑内事例報告も9部署が発表し、ケアの向上に繋げることができた。
事故防止対策委員会	小野関	ヒヤリハットから対策案を出し「備える」ことができ安全に入浴ができています(デイサービス)このことは「事故発生防止」に繋げることが出来たのではないかと思います。防げる事故特に「誤薬」などはまだまだなくなる状況にある。介助中の事故も含め、防げる事故を1件でも少なくしていけるよう、事故防止委員会から発信して周知し、結果として繋げることができるようしていきたい。
臨地委員会	河野	・コロナ対策の為、実習開始の時に検温し、体温を記入し体調確認を行った。 ・コロナ対策の為、4段階実習は1週間ずつ行った。
経営会議	藤田	毎月の営業月報により前月の稼働率等を振り返り、実績分析、各部門の情報共有ができ経営状況等の理解ができた。経営状況を理解し、売上、実績の安定に結び付くよう行動をしていく。

令和2年度 各部署の評価

部署名	評価
本館2階	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けする際は冗談を交えたり、明るく話しかける事を心掛け、自然と笑顔になれるよう対応することができた ・本人の言葉や表情、仕草を観察し、何を希望されているか察し、支援を行うことができた ・コロナ禍の中で、計画が変更となった行事がいくつかあったが、担当職員が感染対策を考えながら楽しめる行事の企画を考え実施することができた。 ・ショートご利用者様からの苦情に対し、フロア職員で今後の対応を話し合いをした。今後不快な思いをさせないよう、コミュニケーションを取り対応していきたい。 ・感染対策を例年以上に心掛け、コロナウイルスをはじめ、感染症をひとつも発生することなく過ごすことができた。
本館3階	<p>コロナ禍で計画した行事が変更になってしまったが、何か楽しんでもらえるように計画し行うことが出来ていた。面会が制限されていたため、職員より笑顔で元気であることを家族に伝えたいという意見あり、長寿新聞を毎月届けることができるようになった。来年度にもつなげていきたい。</p>
新館1階	<p>コロナ禍の中、職員の勤務調整の厳しい日々もあった。感染対策には特に意識し対応しながら今できることを考え、新たなフロア行事ができた。退院も多く、入居一人、看取り対応にて二人退所となった。報連相にて多職種連携により、目標である生活支援をすることができた。また、今年度もマッスルスーツ活用に取り組むことができた。</p>
新館2階	<ul style="list-style-type: none"> ・外出(外食)が出来ず、レクリエーションの充実化に欠けていた。 ・通常のカンファレンスで家族に参加してもらうことができなかったが、看取った方の偲びのカンファでは話げできた。
新館3階	<p>コロナにより行事が行えなかったり、出来ないことが増えてしまった。その中で何が出来るのか考えさせられる一年だった。その中でも何をしてあげられるのか皆で考え、色々な意見が出た。意見を出し合い行動し、ワンチームで生活感のある暮らしに繋ぐことができた。今できること、今してあげられることを考え、最良のケアが出来るようにしていこうと考えていく。</p>
新館4階	<p>今年度は新型コロナウイルスにより行事など中々できない状況となったが、目標である入居者の気持ちに寄り添い、安心して暮らしていただけるようスタッフ同士で常に考え、意見を出し話し合うことはできていた。介護するスタッフの考え方一つで一人一人の入居者の支援は大きく変わってくるのだと考えさせられた1年でもあった。感染防止の為細かな掃除や消毒など環境整備も力を入れて行うことができた。</p>
デイサービス	<p>今年度は、コロナ禍により、外出の機会がなくなり、屋内での行事となった。その中でデイでの秋祭りが盛大にでき、利用者の記憶に残った行事ができ職員も秋祭りに一丸となり取り組めた。</p> <p>コロナ禍での感染予防の消毒、検温、換気等意識し対応して今後も予防に取り組んでいく。</p> <p>今年度は意識して、他事業所へ空き情報の発信を行ったが、発信してもすぐの効果はないことに気づいた。</p> <p>来年度は随時、他事業所へ空き情報の発信を行い、状況に応じ対応していきたい。</p>
事務	<p>コロナウイルスによる業務環境の変化が多くあった。マスク・消毒など必要物品の管理、それに伴う助成金の申請等今までにない状況が発生したがスムーズな対応をとることができた。</p> <p>ご家族様の面会についても、ガラス越し面会の実施による受付業務の対応も必要となった。</p> <p>改善点もあり来期のへの課題としてまた協議していきたい。</p> <p>物品管理を行う上で各部署と連携し消耗品の扱い方など経費の削減に少しでもつなげることができた。</p> <p>研修等の参加については、中止となる事が多かったが今後はZOOMなどを活用し参加をできるようにしていきたい。</p>
看護	<p>今年度感染症対策(コロナウイルス)にスタッフは神経を使った。特に熱外来に対して受診する事の判断や対応が困難な点が多く、その都度医師は困惑することが多く、大変だった。その為に通常の計画・実績が思うように運ばなかったことが反省となる。今年度の経験を次年度に生かしていきたい。</p>
生活相談員	<p>平均稼働率 本館96.5% 新館95.1% ショートステイ87.6% 入所申込は現状、本館37名 新館15名となっている。</p> <p>昨年度に続き退所数が本館16名、新館15名と多く半数近くが看取りにて退所している。新館の希望者が少ないのが現状であり一旦新館入所後にいずれ本館移動が希望で入所された方も増加している。</p> <p>ショートステイは新型コロナウイルス流行に伴い、稼働率を下げざるを得ない状況となってしまった。</p> <p>感染対策をしっかりと講じながらタイムラグを少なくしていくこと、特養・ショート同士で減少している部分を補っていけることが最重要と考え行動していく。</p>
居宅	<p>新型コロナウイルス感染拡大の中今年度が始まり諸々の会議等が延期になった。12月より2人体制となり協力してお互いの長所を生かして居宅の信頼を築くことが出来たと感じている。毎月新規利用者の支援が出来た。</p> <p>各事業所ともコロナ禍でチームワークを屈指し利用者・介護者に安心を提供できた。</p> <p>この勢いで次年度も信頼を勝ち取っていく。次年度は介護保険法の改正があり、重要事項説明書・運営規定の変更など一つ一つ丁寧に説明を行うとともに、デイサービス・ショートステイと協力して安心して利用して頂きたい。</p>
介護支援専門員	<ol style="list-style-type: none"> ①カンファレンスなどの際に、本人に意向を確認、意思表示できない場合は、職種間で情報共有し、本人のニーズに合った計画書の作成に努めた。コロナ禍により、家族面会が制限される中、家族と会話をする機会が減ってしまった。 ②関係部署で話し合い、本人のできることは見守り、安全に過ごすことができる計画書やケアの実施を心掛けた。 ③カンファレンス後には、速やかな計画書の作成を心掛けた。職種間への回覧や他送付書類が揃うまでに日数がかかることがあった。ほとんどの家族は同意書の返送があるが、返送が滞った家族には連絡をとり、同意書を再送するなどして確実な受領を図った。
地域包括	<ol style="list-style-type: none"> 1、コロナ禍においても、多くの相談が寄せられ、感染予防を行いながら訪問を行った。独居要援護訪問は、感染予防のため、包括からの突然の訪問を控え、相談があった方の訪問を行った。 2、認知症サポーター養成講座、ご近所見守り隊フォローアップ教室の開催を行うことが出来た。 3、コロナ蔓延防止のため、地域ケア会議が6回中止となり、ネットワーク会議が1回文書開催となった。開催時には、各専門職の方から話を聞くことができ、包括主体の自立支援地域ケア会議の開催も行った。
納涼祭実行委員	<p>コロナウイルスにより延期にするか中止にするか等の検討を行った。中止にしてしまうのは簡単だったが、コロナ禍の中でも行えることを考え、夏祭りの開催へと至った。初の試みだったので、上手いかないこともあったが、職員をはじめとする協力のおかげで無事開催することができた。</p>